

認定NPO法人 かものはしプロジェクト  
2014年度年次報告書

# 2014 2015

Kamonohashi-project Annual Report

彼女たちの  
勇気と決意と  
とともに。



子どもが売られない世界をつくる  
認定NPO法人 かものはしプロジェクト

©Siddhartha Hajra

## かものはしの2014年度。

Highlights in 2014-2015

### 2014年度のお礼とご報告

2014年度も皆さまからあたたかいご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。おかげさまで、カンボジアでは被害の状況が落ち着いており、売春宿で強制的に子どもが働かれる被害は減っていると言われています。10年前の本当に痛ましい被害の状況が改善されたのは、皆さまのお力添えのおかげです。ご支援本当にありがとうございました。

しかし、世界の状況を調べると、まだ南アジアの問題は深刻であることが分かりました。南アジアの子ども達への支援をしなければ、私たちの使命は達成されたとはいえないと思います。そこで、2012年度からインドでの活動を始めました。そして支援を始めたことで、少しずつですが、変化は確実に起きています。

一人でも多くの子どもたちを守るために、引き続きご協力いただけますと幸いです。2015年度もどうぞよろしくお願い申上げます。



村田  
早耶香  
共同代表

あたたかいご支援のおかげで、現地で活動することができています。

私たち、「子どもが売られない世界をつくる」ために歩んでいくということを約束しています。この報告書は、その約束にむけてどう努力したのか、どう結果が出たのかということを報告する場です。そう考えて何を報告したらよいかを考えると、たくさん報告したいところがあつて困りました。

業がどう進んだか。あえて選ぶとしたものがいたこと、うれしかったこと、事業がどう進んだか。あえて選ぶとした年となりました。精神的にげっそりしました（肉体的にはふつくらしました）。しかし、そうして一歩ずつ歩むことで、大きな山を登りきれそうだと思います。

日本のサポートの皆さまとカンボジアやインドで関わっている人々と一緒に子どもが売られない世界をつくりたいので応援をよろしくお願いします。



本木  
恵介  
共同代表

カンボジア事業の意義を感じ、インドではかすかだが、確実な手応えを感じた1年でした。

2014年度は、カンボジアの事業と今後どう関わっていくかということを徹底的に考え続けた1年でした。

まずカンボジアでの問題状況の改善を感じながら、予定通り孤児院支援事業を終了しました。コミュニティファクトリー事業は、事業の成長が踊り場を迎へ、黒字化・自立化については一層の取り組みが必要であること、同時に変化するカンボジア社会の中で事業が果たす役割を改めて考え、どう進化していくべきか、議論と調査を重ねました。

その過程で、自分自身のリーダーシップ、チームのあり方についても向き合いました。どんな変化をしていくにせよ、この1年が自分やチームにとって大きな栄養であり自信をつけることができたと感じます。

2015年度はカンボジア事業、そして自分自身にとっても新たな一步を踏み出す年にできればと思います。引き続き皆さまのあたたかいご支援をどうぞよろしくお願いします。



青木  
健太  
共同代表

カンボジア事業、カンボジア社会、自分自身と向き合った1年でした。

### インドでは

#### 問題解決のために描いた戦略を、実行し始めることができました。

心理回復、経済支援を42人に、裁判・捜査支援を45人のサバイバー（人身売買被害者）に提供し、6つのプロジェクトを8つのパートナー団体と実施しました。一人一人のサバイバーに寄り添う「被害者の傷回復プログラム」と、人身売買ビジネスの根幹を壊すための「加害者を処罰する仕組みづくりプログラム」を軸とし、インドでの「子どもが売られる問題」をなくすための活動を継続していきます。「加害者を処罰する仕組みづくりプログラム」においては、人身売買問題の解決のために活動している現地パートナー団体とサバイバーグループとともにコンソーシアム（共同事業体）を立ち上げました。引き続き、マハラシュトラ州と西ベンガル州を結ぶインド最大の人身売買ルートにおける被害者を減少させることに挑戦し続けます。

### カンボジアでは

#### 販売の伸び悩みに奮闘しつつ、コミュニティファクトリー事業の方針を検討。

6年目を迎えたコミュニティファクトリーは、95人の女性たちを雇用することができました。また、2014度から開始した自立化を目標とした独立行政法人国際協力機構（JICA）との連携事業は、順調に進めることができました。販売部門においては、い草商品の販売の伸び悩みに苦しみましたが、直営店のリニューアルなどを行い、改善を重ねています。そして、カンボジア社会の環境変化に伴いコミュニティファクトリー事業は転換期を迎え、事業の方針について議論を重ねてきました。孤児院支援事業は、計画していた5年間の支援を無事に終えました。毎年50人の子どもたちを継続的に支援することができ、困難を抱える子どもに、自らの人生に夢と希望を持てるように、教育や職業訓練の機会を提供しました。長らくのご支援、本当にありがとうございました。警察支援事業については、新しい試みとして、シェムリアップ州で地域に密着した犯罪予防事業を実施しました。

### 日本では

#### さらなる資金調達の成長と、それに伴う組織基盤を盤石にすることができました。

日本での資金調達額が1億5千万円となりました。サポート会員は3,600人を超え、ボランティア登録も600人強となり、より多くの方々に仲間になっていたいことで、問題解決を促進するカンボジアとインドの活動を支えることができました。財源の多様化にも挑戦し、JICAの委託事業を受けることができたこと、支援の輪を海外にも広げることができたことも大きな成果です。体制においては、新しく正職員が2名加わり、インド事業と広報・ファンディング事業の体制強化を行いました。加えて、ISO26000（NPOの社会的責任）の継続実施や、法務においては、規程・ガイドラインの作成と組織内への浸透を粘り強く行い、組織基盤の強化へとつなげました。

共同代表・本木恵介、カンボジア・インドレポート

# 子どもが 売られない世界を つくるために

かものはしが活動を始めて13年、  
カンボジアで11年、インドでは3年。  
カンボジアでは自分たちの事業の意義を  
改めて感じました。

一方インドでは、事業に対する手応えを感じています。  
女性たちの成長に自分たちが学び、  
女性たちのエネルギーに  
自分たちが動かされていました。

Report by Keisuke MotoKi  
on Cambodia & India

# 「2年ぶりのカンボジアだ。」

なぜ、僕はこんなに長くカンボジアに来なかつたのだろう。青木に事業を引き継いだ後、僕はインドでの活動にすべてをつき込んでいた。早朝にひどく寒い東京を出発し、真夜中に蒸し暑いシェムリアップの空港に降り立つ。懐かしいカンボジアの匂いを身体中で感じる。トウクトゥク(三輪タクシー)に乗り込むと、カンボジア語が自然に口を突いて出たのに驚いた。

今回も多くの人を訪ねるが、誰よりも「コミュニティファクトリーで働く女性たちに会うのが楽しみだ。中でもバンケンとの再会が待ち遠しかつた。2008年のファクトリー設立と同時に受け入れた一期生である。彼女たちはすべてが手探りの中で僕らを信じ、苦楽をともにし、ファクトリーを発展させてくれた。バンケンは一期生の中では決して目立つ存在ではなかつた。字の読み書きもできなかつた。でも、物静かで人の話をよく聞き、よく学び、よく考えて行動するバンケンは、いまやチームリーダーとしてファクトリーを支えている。バンケンと話をしたかつた。バンケンの家へバイクを走らせた。土埃を上げて進む。とても気持

ちがよい。青い空、広がる田んぼ、ヤシの木。泥まみれになりながら走った記憶は鮮明だ。村をまわり、人々に話を聞いて回った道はどこで、雨季にはバイクも埋まつてしまふ。20歳で初めてカンボジアを訪れてから、時間とエネルギーをかけた20代を思い出す。

バンケンの家に着くと、真っ先にテーブルが目に飛び込んだ。カンボジアの農家は普通高床式だ。一階部分で牛を飼つたり、物置にしたりする。以前バンケンの家にはハンモックしかなかつた。今は丸いテーブルが置かれている。そこに腰掛けた話を始めた。

written by  
本木 恵介  
Keisuke Motoki  
共同代表

東京大学3年生の時に現共同代表の村田と青木と出会い、2002年にかものはしプロジェクト設立。2006年からカンボジア現地での活動に従事し、貧困層の女性を雇用するためのコミュニティファクトリー事業、警察支援事業の戦略立案、企画、立ち上げを行う。2012年からはインド事業に軸足を置き、インドでの「子どもが売られる問題」をなくすために活動を行っている。



写真中央が夫のセラーさんとバンケン。手前にあるテーブルが2人の家族団欒の中心となる。

## お母さんの死

テーブルを囲んで少し雑談をした後、ずっと気になっていたことを聞いた。お母さんのことだ。バンケンにとっての唯一の肉親であるお母さんは数年前に亡くなつていた。

バンケンは末っ子で、他の兄弟は自立して家を出ていたので、彼女がお母さんと一緒に生活を支えていた。ファクトリーを始めて1年経つ頃、「大変じゃない?」と聞くと、「自分が小さかった頃、お母さんは左手に私を抱き、右手で仕事をして頑張つてくれた。こんなのか苦でもなんでもない」と答えた。隣に座つていたお母さんは涙を浮かべていた。

その後、バンケンのお母さんは病気になつた。振り返ればあの頃が人生で一番大変だったとバンケンは言う。介護のため、ファクトリーを休まさるを得なかつた。給与が大幅に減る中、お母さんの医療費が重くのしかかつた。借金もどんどん重なる。人身売買の業者がつけ入りやすい苦境に陥つていつた。

彼女をなんとかサポートしたかった。象を刺繡したベンケースを縫うのはバンケンの特技だった。そこで、お母さんの介護もできるように、自宅で刺繡をしてもうることにした。バンケンはお母さんが亡くなるまで介護を続けることができ、しばらくしてファクトリーに復帰した。

バンケンは刺繡したベンケースを縫うのはバンケンの特技だった。そこで、お母さんの介護もできるように、自宅で刺繡をしてもうることにした。バンケンはお母さんが亡くなるまで介護を続けることができ、しばらくしてファクトリーに復帰した。



【1】ファクトリーで働くバンケン。彼女は品質管理チームのリーダーとして、い草製品の品質を守っている。リーダーの経験は、また一步女性たちを成長させる。【2】【3】泥まみれになりながら村をまわって聞き込みをしていた、20代の頃の本木。【4】バンケンと彼女の子ども。新しい家族とともに歩く未来は希望に溢れている。

## バンケンは新しい家族とともに歩いていく

ふと、「このテーブルどうしたの?」と聞いてみた。最近買ったという。カンボジアで50ドルぐらいと言うから、日本円では6000円ほどになる。日本人にとっては安いけれど、毎月の給与が100ドル弱の彼女にとっては、月収の半分にもなる高価なものだ。「こういう物を買うだけの余裕ができたのか」と思うと同時に少し複雑な気持ちになつた。「給与の半分を机に使つたのかあ」と思つてしまつたのだ。

バンケンは、微妙な表情の僕に説明した。テーブルがあれば、家族で団らんができる。訪れた人をもてなすことでもできる。訪れた人をもてなすことでもできる。実はバンケンは近くに住む男性と結婚し、新しい生活を始めていた。

夫のセラーさん、そしてこれから産まれてくる子どもと家庭を築いていく。日常生活で精一杯の中、未来への第一歩として、このテーブルを買ったのだ。バンケンと夫の決意がすつと理解できた。

〔 インド編へ 〕

## ファクトリーで働き、家族を守り、そして成長していく

僕はかものはしの事業の意味を改めてかみしめている。カンボジアでの生活は決して楽なものではない。小さなほどろびから、家族が離散し、人身売買の被害にあうこともある。ファクトリーを通じて、そうした脅威から女性や子どもを守ることを実現した。女性たちは全場で自立する力を確実に身につけることができる。このような事業をスタッフやサポートー、そして村の女性たちとともに作られたことを誇りに思う。

# 「私のような被害者が二度と生まれないよう！」

in India



弁護士、ソーシャルワーカー、NGO代表が参加した戦略を立案し、事業進捗を管理する会議にサバイバーが参加した。彼女たちの本質を捉えた発言にはっとさせられ、問題をなくしたいという想いに力を得た会議となった。

## 「被害者が二度と生まれないように！」裁判で証言したブリヤの決意と勇気

「いい働き口を紹介してあげる」という言葉にだまされ、ブリヤは西ベンガル州南24区から1500キロ離れたマハラシュトラ州の売春宿に売られた。当時まだ17歳、苦しい日々を送った。かのちはプロジェクトがパートナーを組むNGO、レスキューファンデーションと警察に救出された。別のパートナーNGOのGGBKとサンジヨグから精神的なケアと経済的自立の支援を受け、被害を乗り越えることができた(深い心の傷を今も乗り越え続けている、と言ったほうが適切かもしない)。今は、経済支援を活用して、村で小さな日用雑貨店を開いて暮らしている。

この問題を解決するのはエベレストに登るようなものかもしれない

僕は2009年に初めてインドの地を踏んだ。カンボジアでの経験をひっさげて。でも、すぐに圧倒された。インド国内から、バングラデシュから、売られてくる子どもや女性たちの深刻な実態に驚いた。同時に子どもが売られる問題を解決するために最前線で闘うNGOや政府のリーダーたちのパワーに圧倒された。彼らに現状を教えてもらい、そして、解決策を一緒に考え実行するために何度も話し合った。

こうした調査を重ね、議論をして、考えて考え尽くした結果、編み出された戦略はとてもシンプルだ。人身売買で儲ける人間を罰し、被害者が負った傷

を回復する、そういう仕組みをつくる。この仕組みを確立することで、人を売り買いし儲けるという悪いビジネスを壊していく。単純な話ながら、実現はとても難しい。素人がエベレストに登るようなものかもしれない。カンボジアの人口が1500万人。一方、インドの人口は12億人。100倍近い。文化も多様で、官僚機構は複雑だ。情熱的に活動するNGOのリーダーたちが多いが、どう簡単に問題は解決できない。そんな国で自分たちに何ができるだろうと、インドに来たばかりのときからずっと思っていた。

## 感じる手応え 子どもが売られない世界に向かって

しかし、今、僕は手応えを感じている。

インドでの人身売買に対する取り組みは1990年代に始まっている。ここ20年以上の歴史の中で、サバイバーが活動に参加することは少なかった。サバイバーは弱い存在、字の読み書きもできず支援されるだけの対象とされてきた。でも、実はそうではない。彼女たちは強い力を秘めている。この1年、彼女たちと活動とともに、それがよく分かった。彼女たちのエネルギーこそが、活動を前進させる。そして、リーダーたちの結束を強めるのだ。僕がブリヤの勇気に心が震えたように、他のメンバーも彼女たちのエネルギーに触れることで、困難があつても前に進むことができる。サバイバーを中心としたこのチームであれば、エベレストも登り切ることができる。そういうかすかな手応えを感じた。



【1】西ベンガル州南24区の風景。【2】四半期ごとの会議。さまざまな立場をこえて、サバイバーの声に耳を傾ける。【3】家族の勇気、支えがあって初めて可能になる闇。

プリヤたちサバイバーの勇気はどこから来て、どこへ向かうのだろう。もちろん、自分を深く傷つけた人たちへの激しい怒りはある。それよりも、「他の女の子に自分のような被害を受けさせたくない」という気持ちが強い。そう語る彼女の強い心に触れ、実際に彼女の行動を目の当たりにした時、僕自身の中からエネルギーが湧き上がってきた。僕は彼女たちを尊敬する。彼女たちの「自分のような被害者を出したい」という願いと一緒に実現したいと思う。

プリヤたちサバイバーの勇気はどこから来て、どこへ向かうのだろう。もちろん、自分を深く傷つけた人たちへの激しい怒りはある。それよりも、「他の女の子に自分のような被害を受けさせたくない」という気持ちが強い。そう語る彼女の強い心に触れ、実際に彼女の行動を目の当たりにした時、僕自身の中からエネルギーが湧き上がってきた。僕は彼女たちを尊敬する。彼女たちの「自分のような被害者を出したい」という願いと一緒に実現したいと思う。

人は無罪となる。彼女の証言にすべてがかかる。1週間以上店を閉めなくてはならず、日々の生活に影響する。しかも、だまされて売り飛ばされたときと同じ列車に乗って、地獄の思いをした売春宿のある街の裁判所に行くのだ。証言するためには、自分がどんな被害にあつたかを鮮明に思い出さなくてはならない。僕たちは、「プリヤ、君が行きたくないなら行かない」と彼女に伝えた。実際、遠くの裁判所まで何日もかけた。身代金が大きいため、断念するサバイバー（人身売買被害者）が多い。でも、彼女は証言をしにいくと決めた。そして、彼女はやり遂げた。僕の心は震えた。



# Kamonohashi in India

## インド事業部

インド事業部は2014年度、  
野放しになっている加害者を逮捕・有罪にすることで、  
人身売買をなくすための仕組みづくりを2つ開始しました。



## Programme

## 02

## 人身売買ビジネスの根幹を壊す

[ 加害者を処罰する仕組みづくりプログラム ]

インドの人身売買の問題点は、加害者が罰せられず、「野放し」になっていることです。加害者を確実に見つけ出して適正に「処罰」し、被害者が適切に回復の支援を受けられる公正な社会を目指します。特に農村で子どもや女性を「買い付け」る「トラフィッカー」(少女をだまし売春宿に売り飛ばす者)による犯罪を根絶し、人身売買ビジネスの根幹を壊すことで、インドでの「子どもが売られる問題」をなくします。

サバイバーの声を大切にし、現地のNGO、行政、財団、企業などと協力しながら、インドで「子どもが売られない世界」を実現します。

問題解決に本格的に乗り出してくれる弁護士たちが増えた。(コンソーシアムのチームメンバーの弁護士たち)

かものはしはインドで  
サバイバー(人身売買被害者)の  
支援とともに、社会の  
仕組みを変える活動を行います。  
「自分のような被害者」を  
出したくないという



## Programme

## 01

## 一人一人のサバイバーに寄り添う

[ 被害者の傷回復プログラム ]

レスキューされたサバイバーは、シェルター(保護施設)で医療サービスやカウンセリングを受け、売春宿で受けた心と身体の傷を癒やします。かものはしは、心身回復をサポートし、自分の力で生きていくように経済的自立を支援します。また同様の被害者が出ないようにサバイバーが声を上げられる仕組みづくり、リーダーシップ研修も行います。

## かものはしがインドで行っているプロジェクト

項目	プログラム	プロジェクト名	パートナー団体	年度予算(万円)				
				2013年度	2014年度	2015年度(予定)	合計	比率
調査	01	人身売買をとりまく捜査、裁判実態調査	STCI / サンジョグ	257			257	6%
	01 / 02	西ベンガル州南24区、北24区におけるNGO活動状況調査	CINI / ハミングバード財団		15		15	
モデル開発	01	被害者の心理回復モデルの開発(Dance Movement Therapy)	コルカタシャンプド / STCI / HASUS	201	116	150	467	30%
	01	農村部での被害者の心のケア及び経済的自立支援モデルの開発	サンジョグ / GGBK	139	383	360	882	
	02	都市部での被害者経済的自立支援モデルの調査・開発	ドリティファンデーション		88		88	
連携促進	01 / 02	人身売買加害者を処罰する仕組みづくりプログラム(Tafteesh)	レスキューファンデーション / サンジョグ / GGBK / ハミングバード財団		783	920	1,703	45%
	02	人身売買撲滅のための政府諸機関・NGO連携促進モデルの開発	STCI		200	240	440	
その他	01 / 02	成長性が極めて高いサンジョグに対する組織支援	サンジョグ	162	125	200	487	19%
	01 / 02	人身売買概況調査	Dasra / ハミングバード財団	181			181	
	02	レスキュー後の裁判支援	レスキューファンデーション	210			210	
				合計	1,150	1,710	1,870	4,730



written by

清水 友美 Tomomi Shimizu

インド事業部シニアプログラムマネジャー

2年間のインド駐在を経て、2013年7月からかものはし日本事務所勤務。大学院修士課程修了後、国際機関や人道支援機関で開発援助事業に携わる。

## other programme そのほかの取り組み・活動

Topic 01

### 現地パートナー団体サンジョグの代表2名が日本を訪問



サポーターと交流しました。当初一緒に来る予定だったサバイバー2名は諸手続きの遅れにより、来日できなかつたのは残念でしたが、今後来日が叶うようしたいと思います。

Topic 02

### フォトジャーナリストの安田菜津紀さんがインドに！



青木・村田がインドに訪問した際に安田さんにも同行していただきました。安田さんからのメッセージ「女の子たちの安心、安全、そして夢を守る活動、これからも写真を通して応援させてください。」

Topic 02

### 海外の財団と提携が加速

イギリスのハミングバード財団と連携し、資金面での協力を得ながら、2事業を実施しました。2014年11月にはハミングバード財団とともにかものはしの共催で、反人身売買の活動をしている財団、国際NGOを集めて、ロンドンで意見交換会も行いました。



Topic 04

### プロボノと協力し4団体で共同利用する被害者データベースを構築！



プロボノの方のサポートを得て、被害状況と加害者情報を分析するためのデータベースを作りました。



プロボノの安藤昭太さん

## Pick up Topic

### 今年は87人のサバイバーに支援を提供できました！

2014年度、かものはしは心理回復・経済支援を42人に、裁判・捜査支援を45人のサバイバー（人身売買被害者）に提供しました。かものはしからビジネスの初期資本を受けとて衣料品ビジネスを始めたハミダさんは、3人の子どもたちを抱えながら、ひとりでビジネスを切り盛りしていますが、ビジネスは好調です。現在かものはしから裁判支援を受けながら、彼女を売春宿に売ったトラフィッカー（子ども・女性をだまし売春宿に売り飛ばす者）の取り締まりを警察に掛け合い、正義をかけて闘おうとしています。彼女は、「村に戻ってきて、孤独な闘いだと思っていた。でも遠い日本から多くの人が支援してくれているのを知って、私はひとりじゃないんだと感じることができた。」とコメントをくれました。



# Topics in India Programme

「被害者の傷回復プログラム」と「加害者を処罰する仕組みづくりプログラム」の2つの活動と、それ以外での2014年度に行った取り組みやトピックスを紹介します。

## programme: 01 「被害者の傷回復プログラム」

Topic 01

### リハビリテーションを22人に提供



身体を使ったワークショップを通じて、心の傷の回復を支援しています。スペシャリスト団体コルカタシャンプードと活動を実施しています。

Topic 02

### 被害者から女性起業家に成長中！



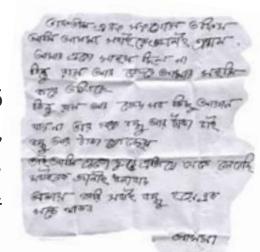
経済的自立のため、サバイバーが自分の村で小さなビジネスをスタートするのを支援しています。

## programme: 02 「加害者を処罰する仕組みづくりプログラム」

Topic 01

### サポーターの皆さまへのお礼の手紙がサバイバーから届きました

裁判で証言をすることになったサバイバーへの応援メッセージを緊急でお願いしたところ、合計85人からメッセージをいただきました。そしてサバイバーからは「皆さんからいただいたメッセージを見て、涙が出そうでした。こんなにたくさんの人が私を応援してくれているのみて、とてもうれしかったです。こんなに遠くにいるのに、こんなにつながっている。本当にありがとうございます。」という手紙をもらいました。サポーターの皆さま、急なお願いにも関わらずご協力ありがとうございました。



Topic 02

### 被害者と村の人たちが共同アクションを



サバイバーが村の中で声を上げるのに、村人たちと一緒に何かできないか、検討を始めました。

Topic 03

### NGO同士の連携促進



被害者の出身地のNGOと、レスキューされた都市で活動するNGO同士の連携を促進させる会議を開始しました。被害者に適切な支援を提供するためにはNGO同士の連携が必要です。

Topic 04

### 人身売買を取り締まるエコシステムを強化

STCIとともに、マハラシュトラ州ナグプール県で、人身売買を取り締まる関係者のエコシステム構築を始めました。

Topic 05

### 警察官・検察官93人にトレーニングを提供



新しく施工された「子どもを性的被害から守るための法令」等をふまえ、警察官・検察官トレーニングを支援しています。

A県の赤線地帯では、まだまだ10代前半の子どもたちが売られている。インドで活動している中で何度も耳にした「A」という地名は私の記憶の中ずっとくすぶっていて、2014年9月にその赤線地帯を訪問した。現地パートナー団体の

清水 友美 Tomomi Shimizu

売られる子どもたちに、実質的な選択肢はない



A県にある市場の様子。他の街となんら変わらない人々の営みがある街の一角の売春宿で、子どもたちが売られている。

**子どもたちが売られている現状**

インドの中でも児童買春の多い赤線地帯で、私が見てきたもの

／*written by 清水 友美 Tomomi Shimizu*

車を売春宿近くに止めると、大声で叫び、女性たちが逃げ惑っている。明らかに人相悪い、チンピラ風の人たちが私たち一行をびたつと取り囲み、すごい形相で睨みながら歩いてくる。どうやら私たちは売春宿にスキューハー（子ども・女性をだまし売春宿に売り飛ばす者）がいて、その女性がまるに、3ヶ月に一度、自分の村から7～8歳の女の子たちを「買い付けて」いる人だつたときだった。私の目の前にトラフィッカー（子ども・女性をだまし売春宿に売り飛ばす者）がいて、その女性がまるい、あなたがやっていることは犯罪で、売られたきた7歳の女の子の身になつてしまい、なんでそんな非人道的なことが同じ女性でしながらできるのか。私は込み上げてくる怒りのあまり涙が止まなくななり、体が震えた。でも、私たちは警察を呼ばなかった。彼女のビルに閉じ込められていると言っていた女の子たち3人を救うことはできなかつた。

A県の赤線地帯では、まだ10代前半の子どもたちが売られている。印度で活動している中で何度も耳にした「A」という地名は私の記憶の中ずっとくすぶっていて、2014年9月にその赤線地帯を訪問した。現地パートナー団体の

### かみしめる想い

果たしてその「同意」とは何なのだろう。どうして彼女たちには売春婦になるか、同族の暴力的な男と結婚する以外選択肢が与えられないのだろう。「同意」の上、売春婦として生きていく中で彼女たちは体をすり減らし、命をすり減らしがれれている自分を抱えながら生きていかなければならない。そんな悲しいことはない。早くにレスキューされていれば、



一日も早く救い出せるように、仕組みとして救い出せるように、かものはしさを地道な活動を精力的に続ける。

# インドの人身売買被害者の流れ

Fact sheet about sex trafficking in India

インドでは100万人から300万人の女性と子どもたちが人身売買の被害にあっていると考えられています。その多くが、家族を養わなければならないという思いで出稼ぎに出ようとするプロセスで、だまされて売春宿に売られてしまいます。



47% from West Bengal

被害者の約47%が西ベンガル州出身

マハラシュトラ州政府のデータによると、2006年から2013年の7年間に同州で救出された女性、子どもの出身地トップ10は、47%以上が西ベンガル州出身者で、突出していました。続いて、マハラシュトラ州出身者、次に隣の州のカルナタカ州出身者が多いことがわかっています。西ベンガル州出身者が多い理由は、西ベンガル州が災害の影響を非常に受けやすく、ネパール及びバングラデシュと国境を接していること、女性の移動性が高いこと等が考えられています。

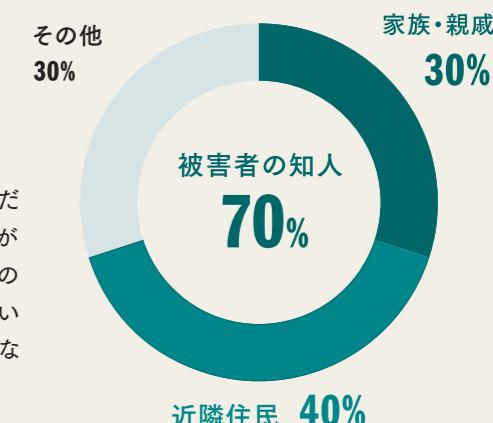
出典: State and country wise number of victims admitted in shelter homes of Maharashtra in the year 2006-2007 to 2011-2012(マハラシュトラ州女性子供開発局)

70% of traffickers are acquaintances of the victims

トラフィッカー（加害者）の70%は被害者の知人

子ども、女性を農村から連れ出す「トラフィッカー」（子ども・女性をだまし売春宿に売り飛ばす者）は、家族や親戚が30%、近隣住民が40%と、被害者の知り合いが70%を占めています。これまでのもののはしの調査で、実の父母や兄弟がトラフィッカーであることは多くないことが分かっていますが、人身売買の実態は、被害者の非常に身近なところで発生しています。

出典: Sanjog Sanyukt Snapshot



／*written by 清水 友美 Tomomi Shimizu*

# Kamonohashi in Cambodia

## カンボジア事業部

カンボジア社会と市場環境が変化する中で、事業を一歩ずつ進めました。

コミュニティファクトリー事業は成長の踊り場を迎えながらも、

今後の変化に向けて議論を重ねてきました。

そして孤児院支援事業、警察支援事業については予定通り実施することができました。

ミシンセクションで楽しそうに働く女性たち。ここでは製品の印象を決める縫取部分をい草部分と縫い合わせる。集中力と手先の器用さ、スピードが求められる高度なセクションだ。©Natsuki Yasuda

# 病、医療、信念。

一人の女性の命から考えたこと

「助けられなかった。」スタッフが泣いて電話をしてきたのは1月初めの真夜中。病気で休職中のミシンチームの女性の一人の容態が急変、命を落とした。彼女が休職に入ったのは亡くなる約1ヶ月前。呪術的療法で自宅療養していた。医療環境が未発達なカンボジア農村部では、祈祷や呪術も大切な治療法の一つである。ただ実際は家で寝ているだけのことが多く、スタッフはできるだけ早く病院で診察を受けることも日頃から強く勧めている。病院に行くお金がネックになるのも事実なため、マイクロインシュランス(少額医療保険)に加入しキャッシュレスで治療を受けられるサポートもしている。

カウンセリング担当のスタッフは、彼女が休みに入った後も頻繁に訪問したり、電話で話したりして、すぐに病院に行くよう再三説得にあたった。しかし医者への信頼は低く家族は祈祷・呪術にこだわった。最終的に大きな病院に行ったのは容態が急変した後。家族からの訃報を受けてスタッフと私が思ったことは、無理矢理にでも彼女を病院につれていくべきだったのか——そのやるせなさだった。その後、スタッフと何度も話したのは家族や本人が治療に関して自身の意思で納得する選択ができていたのか、適切な判断ができるだけの十分な情報を持っていたのかということだった。本人に、家族に、そのとき病院にいくという選択肢が現実的にあったのか。医療保険の存在を家族はどこまで理解していたのか。そこに至るまでに私たちにもできることがあったのではないか。数日後、働く女性たちの家族を招いて、病というリスクと呪術や祈祷、医療についてのワークショップを行った。

彼女たちの未来のために、直面するリスクを最小限にする仕組みが現場で理解され機能しているのか、その仕組みで十分なのか、と繰り返し自問自答しながら信念を持ってやりぬく。発展途上の国だから、農村部だから、そんな理由には甘んじまい。葬儀の数日後、皆で黙祷を捧げながら、20歳という若さでこの世を去らねばならなかった彼女に想いを馳せ、私はそれを心に強く誓った。



葬儀が行われた翌日、ファクトリーとオフィスでは同時に黙祷を捧げた。たくさんの女性が、亡くなった彼女との思い出を涙ながらに語り合った。

*written by*  
**亀山 菜々子** Nanako Kameyama

カンボジア事業ソーシャルエンパワメント部門マネジャー  
2008年よりインターンとしてかものはしプロジェクトで活動を開始。大学院卒業後、2012年よりカンボジア現地駐在。  
ファクトリーの女性たちのケアやトレーニング等を担当。



③の現地化は、次期代表候補のカンボジア人マネジャーの退職により、一步後退した結果となりました。一方、現地化を進めるにあたり、マネジャー陣を集めて組織の方向性や強み・弱みを議論するワークショップを数回行ったことで、チームビルディングを強化する貴重な機会となりました。昨年度から開始した自立化を目指としたJICAとの連携事業は順調に進進めることができ、引き続き連携を強化していきます。

*written by*  
**横山 優里**

**Yuri Yokoyama**  
カンボジア事業販売部門マネジャー  
大学卒業後、民間企業に3年間勤務。2013年よりファンドレイジング担当のアソシエイトとしてかものはし参画。現在は職員としてカンボジア現地駐在。現地直営店の管理や商品の拡販等を担当。



## Topic 05 スタッフ総勢175名での研修旅行



女性たちの社会見学と、生産目標達成のご褒美でモンドルキリ州へ。笑顔と学びの溢れた2日間でした。

## Topic 06 販売に伸び悩んだ1年



円安の影響や競合店増加などの市場環境の変化により、販売の伸び悩みに苦しむ1年間でした。

## Topic 07 旗艦店の改装を実施!!



オリジナルの什器、ショップ店員と協力して商品陳列を変更。魅力的な店舗を目指して日々改善!

2014年度は、95人の女性たちがコミュニティファクトリーで働き、日々の生産活動やトレーニングを通じて生きる力を伸ばすことができました。コミュニティファクトリー事業は前年度から引き続き、①働く女性たちの自立や内面的成長の支援、②事業の黒字化へ向けた取り組み、③カンボジア人を中心とした運営していく現地化の3つの大きな目標を掲げて事業を展開しています。2014年度はそれぞれの目標について歩みを進めることができましたが、今後の課題も大きく見えてきたが、1年でした。

①の女性の自立については、女性たちのケアをきめ細かくスピード一気に実施して対応できるよう、従来の人事部門から女性たちのケアを専門に扱うソーシャルエンパワメント部門を発足しました。2014年度はそれぞれの目標について歩みを進めることができましたが、今後は成長した女性たちの中でもより広い選択肢を求める人を対象にコミュニティファクトリー以外で働く卒業性を3クラスに分けて担任をつける担任制度を新たに導入するなど、一人一人の成長に向き合う仕組みを整えました。

②の黒字化については、円安の影響半を占めるカンボジア直営店の販売が落ち込み、伸び悩みに苦しみました。一方、旗艦店のリノベーションを実施して店舗改善に努め、またカンボジアのホテルやレストランに拡販活動をするなど、新しい取り組みにもチャレンジした1年でした。

## Topics in Community Factory

**Topic 01** ファクトリーで働いた経験を土台に次のステップへ!



2014年度後半から外部の企業や団体に卒業生を輩出し、新たなステップをサポートする卒業プロジェクトを試験的に開始しました。

**Topic 02** 安倍昭恵さん、コミュニティファクトリーご来訪!



安倍昭恵さん(公益財団法人社会貢献支援財団会長)の笑顔や気さくなお話で、女性たちも終始笑顔いっぱいの楽しいひとときとなりました。



【1】ファクトリーで毎日行っている識字教室の様子。お昼休憩前の11時からの45分間はまた違った学びの時間がある。【2】生産性改善のための指導の様子。生産技術に課題がある女性にはスタッフが重点的に指導を行った。

青木：品質改善と生産性向上には、各々の姿勢がとても大事だね。  
ブッティ：一番重要です。苦手でも向上心があれば良いし、逆に、技術が高くても協調性がないとチームの目標達成は

青木：品質改善と生産性向上には、各々の姿勢がとても大事だね。

真剣に取り組む一人一人の姿勢がチームの思いを結び、絆を強める生きるためのさまざまな学びも

青木：品質改善は生産性向上にもつながりますね。

ブッティ：ミシンの簡単な修理やファクトリーのレイアウト変更などで無駄を減らしました。課題を着実にクリアしてきたことが良かったと 思います。来年以降への課題もあるので、ファクトリーはもっと進化します。

シナ：半期ごとにチームリーダーがメンバーの勤務態度を評価します。今年は先生も一緒に、それをメンバーにフィードバックし、勤務態度の影響を話し合いました。

青木：どんな効果があったのだろう。

シナ：風通しが良くなりました。できなこと、わからないことを助け合えるようになった。私はチームリーダーですが、私のチーム内には私より長く学校に通つた子も、技術が上だとと思う子もいます。以前は彼女たちに製品の「乱れ」をどう伝えるかでよく悩みました。でも、チームの成果は給料にもかかわるし、一緒に目標を目指すことが大事だと思つたら伝えます。言いにくいときは時にありますけど。

ブッティ：チーム内や他チームとの連携で問題は尽きません。でもシナは文字の読み書きもうまくなつた。チームをまとめるのも。

シナ：私は小学校を4年でやめたので、読み書きがほとんどできませんでした。村のワークショップでも恥ずかしい思いをしました。でもファクトリーの識字教室のおかげで、カンボジア語がわかるようになって嬉しいです。日々の生産管理で使うのも練習になります。書くのはまだ遅いんですけど。他にも栄養や保健のことなども学べました。給食も給料も嬉しいですが、たくさんのこと学べて楽しいです。

カンボジア社会発展とともに、  
ファクトリーへ進みます

青木：ファクトリーでは、生産ノウハウのほかにさまざまなことを吸収できるのがものすごい強みだと、6年間を振り返つて思う。さらに強化しようと、年度末にマネジャー陣の合宿でじっくりと方針を話し合つたよね。

ブッティ：とにかくエネルギーを使って話しました(笑)。ここに来てからずいぶん成長したと感じる子がたくさんいます。この1年の努力だけではなく、地道なカウンセリングや指導で培われたものだと思います。ここで自立した女性が育つのは楽しみです。



## シナ×ブッティ×青木 3人で語るファクトリーの現状と進化

事業開始から6年が経ち、女性たちの生きる力を伸ばし成長してきました。  
共同代表の青木が、生産管理部門マネジャーのブッティと手縫い工程チームリーダーのシナの2人に、取り組みや心意気を聞きました。

*Voeung Sinat* ブーン・シナ

コミュニティファクトリー手縫い工程チームリーダー

2010年からファクトリー勤務。4人兄弟の長女で26歳。昨年結婚して男の子を出産した。温厚な性格で、気が利く。ファクトリーに来る前は農業手伝いをしていました。



*Suong Vuthik* スォン・ブッティ

カンボジア事務所生産管理部門マネジャー

NGO・民間企業勤務後、2012年にかものはし参画。ソーシャルエンパワーメント部門カウンセリング担当を経て2014年より現職。責任感と決断力はピカイチ。趣味は旅行。



青木：僕たちはこのクチャ村から、世界に売れる商品を作るビジネスをやっていくために、彼女たちが成長する場としてこのファクトリーが存在すると思っています。

シナ：成長できる機会があるのは素晴らしい。かつて村で一緒に働いたコムソットという友達は今、かものはしのスタッフとして英語を使って街で働いている。とても誇らしいです。

青木：ファクトリーでの経験は必ず次のステップにつながる。ファクトリー出身の女性がいつの日かシェムリアップの5つ星ホテルで働く日が来たら嬉しい。

ブッティ：そのために、次の1年は生きる力を伸ばせる体制を整え、さまざま



青木：今年はずいぶん生産が向上したね。何が効果的だったのでしょうか。

ブッティ：計画をしっかりと立てました。集中生産したり、計画の遅れを計算したり。フランス人のプロボノの方から、コストや生産時間の知識を学べたことも大きかったです。

青木：前はどこかで作業が滞ると、次の工程ではただ待つだけだったよね。

ブッティ：今は時間がかかる工程に大勢を配置します。6月には、各メンバーの生産量を評価して重点的に指導しました。布の置き方や縫い方、道具の使い方などを教えてもらいました。

青木：丁寧な個人指導が功を奏した。細かいことでずいぶん良くなります。

シナ：私のチームでも、作業が苦手な女性に補強トレーニングを実施しました。縫い方を細かく教えたりして、売れる商品を作る視点と技術を伝えました。

ブッティ：ただ品質向上と言われても何をしたらいいのかわかりません。顧客が好むポイントがある。写真を見せたり商品を作る視点と技術を伝えました。

シナ：各工程で良い品質が保てる、全体のスピードが上がります。手縫い部門は製品の仕上げです。一つ前のミシンチームで問題があると、やり直しをお願いしなくてはならない。そこでもめると時間がかかる。

# 警察支援

警察の能力向上に取り組んできた5年間。

2015年度のLEAP\*の最終年度に向け  
新たな取り組みもはじまりました。

警察支援事業は、2014年度も引き続きカンボジア内務省のLEAPプロジェクトを技術的・財政的に支援を行いました。捜査研修のような従来からの継続した支援に加えて、人身取引ホットライン運営の強化と犯罪予防事業を行えたことは大きな成果です。特にこれまでLEAPスタッフと築いた信頼関係や、警察支援を行う技術的な専門性を活かせた結果だと考えています。

特に今年は、新しい試みとして地域に密着した犯罪予防事業をシェムリアップ州で行いました。地元の警察が主体となって、シェムリアップ地域の高校において人身取引問題の理解や現状を高校生に共有し啓発をしました。また内務省のLEAPスタッフ、州副知事、社会福祉局局長、女性局局長、人身取引特別警察局長が一同に介して問題状況を共有しました。



\*子どもの性的人身売買・性的搾取防止のための警察支援プロジェクト

らなるホットラインの安定性の確保や、司法との連携改善といった課題が見えてきましたが、一歩ずつ進んでいく良い流れがでています。ビジョンをもって改革を行おうとする若手の警察官たちと出会い、その想いを確認することができたのも嬉しい瞬間でした。

2015年度はLEAPプロジェクトの最終年度となります。今後のカンボジア社会、警察の果たす役割を見据えながら、今後の支援について検討していきます。

（本文は2015年1月に作成されたものです）

## 私たちの役割をどう発展させるか。 変化するカンボジア社会。



written by  
**青木 健太**  
Kenta Aoki  
共同代表

2002年、東京大学在学中にかものはしプロジェクトを村田、本木とともに設立。2009年からはカンボジア事業を担当し、コミュニティファクトリー事業や、法執行・司法支援の事業を統括する。

私たちが問題とする、子どもを性的なターゲットとした人身売買、特に売春宿で強制的に客をとらされる形態の犯罪は、カンボジアでは着実に減少してきている。

NGOの努力に加え、国際社会のプレッシャーを重くみた政府が法の整備や執行を強化し、経済発展とともに教育を含めたさまざまな状況が改善したことがある。

近年は海外からの投資も増え、そのおかげで縫製業や観光業、農業の加工業が成長し、働き口が増えた。農村の貧困層の人々も、都市に行けばそれなりに安全な仕事に就けるようになってきた。社会が成熟するにつれて、最低賃金も上がる方向に向かっている。私は、カンボジアで活動しながら日々変わる町並みを見て、カンボジアで事業を始めた2004年と今との違いをかみしめている。

一方で、まだ解決しなくてはいけない問題は山積みだ。子どもの性を狙う人身売買の問題も、いつまたひどい状況に戻つても

その上で、私たちのミッションである「子どもが売られない世界をつくる」ことを実現するために、インドのようなくる深刻な状況にある地域での活動を充実させるために、金銭面や人員配置で適切な戦略を描く必要がある。

一方、現在カンボジアで行っている事業については、それぞれの強みや課題、持続性を評価し、それがカンボジア社会やその他社会問題とどう関係するのかについて、カンボジア人スタッフや地域の人々としっかりと話し合うことが大切である。コミュニティファクトリー事業は2014年度、市況の悪化を受けて黒字化が一步遠のくといふ困難の中、改めて活動の意義や持続性について再確認する必要があった。

2014年度にカンボジア人のマネジャーたちと議論する中で、女性の社会的自立を支援する事業として、3つの方針が定まりつつある。(1)計画通りコミュニティファクトリー事業を自立させること、(2)生きしていくために必要な「ライフスキル」を身につけるトレーニングに一層力を入れること、(3)企業や他の団体と連携し女性たちに職業紹介し多様な働き方を提示していくこと——が挙げられる。2015年度も引き続き議論を深めながら、事業修正の可能性があるかどうか確かめられる年にできればと考えている。

私たちがもともと心配しているのは、子どもが売られる問題が再び悪化しないかどうかである。性を目的とする人身売買の動向、犯罪の状況、被害者の社会復帰の実情などに注意を払わなければいけない。

# 孤児院支援

毎年50人の子どもたちを  
継続的に支援することができ、  
計画していた5年間の支援を無事に終えました。

売られてしまう危険のある子どもたちを水際で助けたい——。かものはしの孤児院支援は、そうした想いで支援してきました。支援するドムノータック孤児院は、タイとの国境に近く、危険地域とされる町ボイベトにあります。

これまで5年間の活動をあたたかく見守り、支援してくださった皆さんに、改めて感謝申し上げます。皆さまのご支援のおかげで計画を無事に終えることができました。ドムノータック孤児院は継続して自立して運営を継続しておりますが、かものはし5年間の支援で得た学びは、今後の活動に活かしたいと思います。

孤児院では栄養ある食事をとり、医師から健康管理を受けられます。また、年齢や各自の希望に添ったプログラムを用意しています。学校を辞めざるを得なかつた子のための教育プログラム、自立のために裁縫や設備技術を学ぶ訓練、営業やマーケティングの講習も提供しています。



（本文は2015年1月に作成されたものです）



写真：カンボジアの首都 Phnom Penh の様子。発展するカンボジア社会の中で、かものはしはどのような役割を担えるだろうか。

経営企画・管理においては、カンボジア・インドでの問題解決を促進するために、現地事業の活動状況に応じた経営体制とオペレーションシ

また「支援者の皆さまの声」は現地での活動の励みになります。今年度も声を聞かせていただく機会があると思いますので、その際は是非ご協力をよろしくお願いいたします。

written by

**朝岡 真央** Mao Asaoka

経営企画・管理マネジャー

企業勤務を経て、2012年7月からはプロジェクトに参画。団体の事務局としてガバナンス強化、海外支部との連携等、現地での活動拡大と資金調達を支える基盤づくりを担う。



**小畠 瑞代** Mizuyo Kobatake

広報・ファンディングマネジャー

かものはしの「この問題は必ず解決できる」という信念に共感し、子どもがだまされて売られてしまう問題を世の中に広く理解してもらうため、2012年7月よりかものはしプロジェクトに参画。



## 色々な方々からの支援の輪が広がっています。

### 子どもが売られる問題の解決に 高校生たちが力を貸してくれました

「次世ノハシ」という高校生の学生団体が、2014年5月と11月の2回に渡って東京都内の駅前で街頭募金の活動をしました。最初は恥ずかしくて声が出ませんでしたが、徐々に慣れて元気な声が聞こえてきました。「がんばってね」と、お花と一緒にメッセージを書いたカードをくれる小学生の子がいたり、わざわざ銀行に行って現金をおろしてきてくださる人がいたりと多くの人に励まされながらの募金活動の結果、5月と11月合わせて合計455,315円をご寄付いただきました。高校生の前向きな姿を見て、ますます子どもが売られる問題をなくそうと強く思える募金活動でした。



written by

**村田 早耶香** Sayaka Murata

共同代表

大学在学中に東南アジアを訪れ、子どもが無理やり体を売らされている問題があるという現実を知り、活動を始める。2002年に世界の「売られる子どもの問題」をなくすため青木、本木と一緒に「かものはしプロジェクト」を設立。



## Topics in Japan

### 感動と熱気に溢れた、 かものはし初のチャリティパーティを開催しました

2014年10月に初めてチャリティパーティを開催し、日本の各界でご活躍されている女性のリーダーの皆さんにご参加いただきました。インドから来日したパートナー団体のウマ・チャッタージさんより、インドの子どもが売られる問題について伝えていただきました。実際にサバイバー（人身売買被害者）の女の子たちの人生に寄り添って活動をしているウマさんの話は、とても心に訴えかける内容でした。参加の方々は、ウマさんからのサバイバーの女の子の話を聞き、時に涙し、熱く語ってくださり、熱気と感動に溢れる会となり、嬉しく思っています。



2015年度は

情報発信の強化と、カンボジア・インドに一層注力できる経営体制を目指します

2015年度は、1億4千万円を目標に資金調達を行い、734人の方に新しくサポート会員になっていただくことを目指します。

今まで以上にカンボジアとインドでの活動を安定的に支え問題解決に寄与することと、現地での活動をやすくお伝えすることを目標に、動画などを交えて現場の情報を分かりやすく、継続して発信していくと考えています。

そのためにも2015年度は、①新たな事業評価指標の開発、②組織文化の再定義と人事力（とくに採用力）の強化、③経営への財務ファイードバック体制づくり、④業務フロー革新を念頭に置いたバックオフィス業務の効率化（経理・労務・総務）を重点項目として取り組みます。また、インドにおける活動拠点作りのサポートを継続していきます。

システムの構築により、中長期においても現地事業へ一層注力できる経営体制づくりを加速していきます。

2014年度は、資金調達額が前年度比45%増の1億5千万円となり、カンボジアとインドの活動を支えることができました。日頃の皆さまのあたたかいご支援に心よりお礼を申し上げます。

サポート会員は前年度より12%増えて3600人を突破しました。ボランティア登録も600人強と、より多くの方々に仲間になっていただきました。

また国内だけでなく、イギリス・シンガポールといった海外の支援者の方々へのアクセスを開始し、2014年度はインド内外の企業・財団に働きかけ、合計約500万円の資金を現地パートナー団体へ誘致することができました。



2014年6月に開催した年次総会。総勢150人以上の方に参加いただき、1年の活動をお伝えし、皆さんから熱いご質問やご意見をいただきました。

2014年度は、公的資金や海外の財團など、資金調達先を多様化させることに挑戦しました

かものはしの基盤を支える経営企画・管理では、新しく正職員が2名加わり、インド事業と広報・ファンディング事業の体制強化を行いました。

2014年度

かものはしの基盤を支える経営企画・管理では、新しく正職員が2名加わり、インド事業と広報・ファンディング事業の体制強化を行いました。

## かものはしのスタッフ

### カンボジア事務所



#### FAD:財務・総務部門

Chheng Kimhorn / Chun Vet / Khan Dina / Khiev Sopheap / Kuy Piseth  
Thorn Thorth

#### S&M:セールスマーケティング部門

Chhan Danet / Bran Lek / Kin Borey / Kum Por / Mao Kamsoth  
Naoko Aoyama(consultant) / Nget Saret / Nov Sokserey / Phon Channa  
Vai Cham Roeun / Som Koemsay / Vo Sok / Yuri Yokoyama

#### Social Empowerment:ソーシャルエンパワメント部門

Kameyama Nanako / Khloeut Sochet / Se Bunly / Teng Samnang

#### HR:人事部門

Ouk Onn / Sdoeung Sopheak

### 日本事務所



#### 共同代表

村田 早耶香 / 本木 恵介 / 青木 健太

#### インド

スタッフ: 清水 友美 / 福井 陽名  
インターン: 安藤 昭太 / 谷 杏奈 / Natasha Louis / 成川 由倭 / 原 和也  
松延 朗子 / 和田 元

#### 日本CF商品販売

スタッフ: 外崎 恵子 / 野本 由美子  
インターン: 河島 善彦 / 鈴木 慧南 / 長南 光太 / 林 大貴 / 牧野 健一郎  
松崎 太河 / 渡辺 麻友

## 皆さまからのメッセージ

### 安倍 昭恵さん

内閣総理大臣夫人



小さな子どもたちが強制的に売られていく。こうしたことがいま世界で起こっているということに愕然とします。しかし、平和な現代の日本で、こうした事実を知らない、知っていても自分にはなにもできないと思ってしまう人が多いのもまた現実です。こうした中、大学生のときにこの問題に出会い、正面から取り組むことを決意した村田早耶香さんの勇気と志に深く感動し、わたしも心から応援をしたいと思います。ぜひ、より多くの方に仲間になっていただきたいと思います。

### 黒田 麻衣子さん

株式会社東横イン  
代表執行役社長



しゃぼん玉で遊ぶ5歳の女の子。実はそこは売春宿。その少女は既に性的被害にあっていましたと、村田さんから見せていただいた映像から知りました。その日は夜も眠れませんでした。私にも二人の娘があり、他人事とは思えませんでした。絶対に子どもが売られる問題の根絶をしなければならない。かものはしプロジェクトさんに協力したいと思いました。若い人達が本気でこの問題に取り組んでいることを頼もしく思っています。

サポートー会員  
桜井 重明さん  
ジョンソン・エンド・ジョンソン  
株式会社



かものはしプロジェクトを知ったのは、創業期の10年以上前になります。創業期から変わらないそのチャレンジ精神溢れる取り組みに刺激を受けております。私自身は、以前から「サポートー会員」として支援を続けていましたが、数年前からは勤めている会社も、かものはしプロジェクトへの支援を継続的に行っており、益々身近になりました。これからも一人でも多くの子どもの笑顔を守る一助となれるよう、微力ながら応援しています！

## 理事・監事からのメッセージ

### 理事

#### 伊藤 健さん

慶應義塾大学 大学院  
政策・メディア研究科 特任助教  
アジア・ベンチャー・フィンансロビー  
ネットワーク 東アジア統括



かものはしプロジェクトの事業は、異なるセクターの組織の効果的な連携を促進する「コレクティブ・インパクト」を、人身売買防止の領域で実践する、大変先進的なモデルだと考えます。今後の活動に是非ご支援・ご協力をいただければと思います。

### 理事

#### 下澤 嶽さん

静岡文化芸術大学 教授



かものはしは、これまで以上に成長を続けています。プロジェクトの変化も年々早くなっています。片方、内部の人の動きもあり、経営のあり方や体制も大きな変化の中にいます。こんなときだからこそ、これまでのミッションを忘れず、活動を進めていきたいですね。

### 監事

#### 樋口 哲朗さん

樋口公認会計士事務所 所長  
早稲田大学会計大学院 講師



モチベーションの高い若者たちが社会貢献している姿を見て、自分も活力をもらっています。我々の世代が何もしないというわけにはいきません。皆さんも引き続き一緒にサポートしていただければ幸いです。まずは自分にできることを、ひとつずつ！

## 年次報告書の制作に関わってくださった方々

ライティング  
**服部 牧夫さん** 読売新聞社/記者

東京工業大卒。読売新聞記者として科学技術や医療を取材する。学生時代にフィリピンの水環境を研究した経験から、途上国支援の思いを抱く。2012年よりプロボノに参画。

デザイン/制作ディレクション  
**サイカンパニーさん**  
NPO・NGO専門のデザイン会社として、2012年に設立。多くの団体のWEBサイトや冊子などのデザインを手がける。  
<http://saiccompany.jp>



写真  
**安田 菜津紀さん** フォトジャーナリスト  
studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。1987年神奈川県生まれ。



進行管理アシスタント  
**菊川 春佳さん** かものはし/広報担当インターン  
2014年9月より日本事務所のインターンとして参画。広報webチームでの業務を8ヶ月間行った後、年次報告書進行管理アシスタントを担当。現在、津田塾大学3年生。

## 1.活動計算書

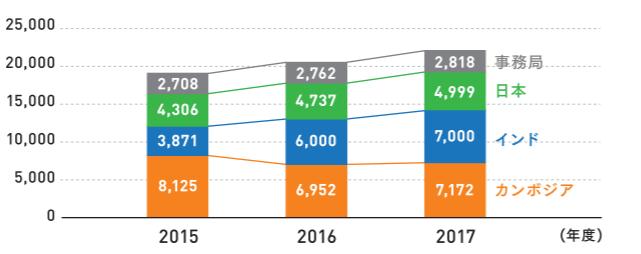
科目	11期(2014年4月1日~2015年3月31日)		12期(2015年4月1日~2016年3月31日)		
	計画	実績	計画達成率	計画	前年比増加率
経常収益	受取会費 正会員・賛助会員受取会費	70,000,000	75,157,600	107%	84,836,000 13%
	受取寄付金 受取寄付金	35,704,500	42,979,100	120%	24,480,000 -43%
	受取助成金等 助成金収入	8,705,000	5,944,046	68%	6,055,000 2%
	受託事業収益 委託金収入	16,842,000	21,652,671	129%	25,277,005 17%
	事業収入 コミュニティファクター事業収入	43,890,000	26,237,873	60%	37,577,500 43%
	啓発事業収入	3,860,000	2,685,175	70%	2,262,000 -16%
	その他収益 雑収入・為替差益	1,091,500	5,732,407	525%	1,134,594 -80%
経常収益 計		180,093,000	180,388,872	100%	181,622,099 -1%
経常費用	コミュニケーションファクトリー事業	58,144,000	61,268,312	105%	58,768,475 -4%
	カンボジア連携事業	8,160,000	7,635,116	94%	2,523,110 -67%
	インド事業	20,600,000	18,252,642	89%	22,100,000 21%
	啓発事業	40,721,000	33,056,436	81%	43,059,892 30%
	事業費 計	127,625,000	120,212,506	94%	126,451,477 5%
	カンボジア事務局	13,646,000	12,506,559	92%	19,955,194 60%
	インド事務局	20,347,000	16,798,131	83%	16,608,990 -1%
管理費 日本国事務局		20,584,000	22,637,105	110%	27,082,943 20%
管理費 計		54,577,000	51,941,795	95%	63,647,127 23%
経常費用 計		182,202,000	172,154,301	94%	190,098,604 10%
当期経常増減額		-2,109,000	8,234,571		-8,476,505
法人税、住民税及び事業税		70,000	71,751		70,000
当期正味財産増減額		-2,179,000	8,162,820		-8,546,505
前期繰越正味財産額		65,109,156	65,109,156		73,271,976
次期繰越正味財産額		62,930,156	73,271,976		64,725,471

## 2.貸借対照表(2015年3月31日現在)

科目	金額	科目	金額		
資産の部	現金預金	61,348,716	負債の部	未払金	5,542,187
	売掛金	1,225	未払法人税	70,000	
	未収金	156,848	前受金	82,768	
	製品	10,666,157	預り金 職員に対する源泉所得税等	3,127,910	
	原材料	945,132	流動負債 計	8,822,865	
	仕掛品	495,813	負債の部 合計	8,822,865	
	前払費用	3,590,295	正味の部財産	前期繰越正味財産	65,109,156
	流動資産 計	77,204,186		当期正味財産増減額	8,162,820
	建物	1,874,189		正味財産の部 合計	73,271,976
	固定資産 車両運搬具	717,269		負債及び正味財産の部 合計	82,094,841
	工具器具備品	1,307,397			
	投資その他の資産 差入保証金	991,800			
	固定資産 計	4,890,655			
資産の部 合計		82,094,841			

2014年度の収益・費用は内訳別にはそれぞれ計画と実績に差異があるものの、正味財産増減額は当初計画を大幅に達成。省資源で安定した資金調達体制が整う中、スタッフの採用および拠点形成に遅れがあつたためインドへの資金投下は600万円未達に止まる。2015年度は、引き続きカンボジア事業を維持、インド事業を徐々に拡大しながら、中長期でインドでの問題解決に向けた大幅な支出計画に備え、Web開発や海外ファンドレイジングなど資金調達基盤の強化に注力する。

国別支出計画(単位:万円)



## かものはしを支えてくださった企業・団体の皆さま

味の素株式会社	Eat Well, Live Well. AJINOMOTO.	イービーエスディーリングリソーシス ジャパン株式会社	MS & AD ゆにぞんスマイルクラブ
MFSインベストメント・マネジメント 株式会社	COMO FOUNDATION	一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会	ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 Johnson & Johnson Contributions Committee
司法書士法人 新宿事務所	一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会	なごみ診療所	帝國製薬株式会社
東京南ロータリークラブ	株式会社 ドクター・ソリューション	なごみ診療所	公益財団法人日本国際協力財団
公財庭野平和財団 NIWANO PEACE FOUNDATION	環境と平和のNPO ネットワーク『地球村』	The hummingbird foundation	一般社団法人PARACUP
VGホールディングス 株式会社	ASIA GROUP	不動産のアジアグループ	

アースリードアテイン株式会社 / IAC財産設計株式会社 / アサヒワンビルクラブ / アヌス株式会社 / 池永経営会計税理士法人  
有限会社居宅介護支援事業所・愛101 / 有限会社イマトクメディック / インフォテリア株式会社 / 特定非営利活動法人WE21ジャパン・さいわい  
株式会社HRインスティチュート / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社エル・アリス / 株式会社エルローズ / 柏木建設株式会社  
加藤産業株式会社 Katoグリーンウッド基金 / かながわ湘南ロータリークラブ / 神谷コーポレーション株式会社 / 川崎南ロータリークラブ  
株式会社キッズ / キューピングループマッチングギフト QPeace / 高徳院 / 國際ソロプロミスト東京-東 / 税理士法人古田土会計  
コモンズ投信株式会社 / 株式会社定松 / 三丸興業株式会社 / 株式会社ジーリサーチ / 学生団体 次世ノハシ / 株式会社ジャクパ  
株式会社ジョイメイト / 新日鉄住金エンジニアリング株式会社 / 住友生命保険相互会社 / セールスフォース・ドットコム ファンデーション  
世田谷聖母幼稚園 / センチュリー法律事務所 / 大阪府立泉陽高等学校 / 株式会社Salt / 株式会社タカゾ / 有限会社テニスピアジュエ  
東京ビジネスサービス株式会社 / 有限会社東武 / 堂本製菓株式会社 / 株式会社東横イン / 土牛産業株式会社  
トライアングル動物眼科診療室 / 株式会社トラストファーマシー / 株式会社永屋 / 株式会社ナーリング・クリエイティブ / 株式会社日建設計  
日本介護事業株式会社 / 一般社団法人日本弱酸性美容協会 / 日本電算機販売株式会社 / 日本リユースシステム株式会社  
株式会社ヌーヴォ / ハウジングスカイ株式会社 / 浜野工業有限会社 / 株式会社ビーフラット / ヒューマンズ・ネット株式会社  
医療法人福智会 / 富士ゼロックス株式会社 / 医療法人芙蓉会 五井病院 / プラス株式会社 ジョインテックスカンパニー / 株式会社古木企画  
株式会社松尾商行 / 村田商事株式会社 / 森屋建設株式会社 / 学生団体 ゆるかも / 横浜ロータリークラブ / 株式会社アリアライズ  
株式会社リオ・トラスト / ロングブラックパートナーズ株式会社 / ウタベウェディング株式会社

\*五十音順・敬称略 \*10万円以上の支援をいただいている法人、団体の皆さまを掲載しております。

## 技術協力

\*五十音順・敬称略  
米国NPO法人iLEAP / サイカンパニー / 電通 ソーシャル・デザイン・エンジン  
株式会社マルケト、株式会社セールスフォース・ドットコム、social force、NPO法人ENPOWER / 株式会社三井住友フィナンシャルグループ

**監査報告書**

特定非営利活動法人かものはしプロジェクト  
理事長 青木 健太 殿

私は、2014年4月1日から2015年3月31日までの第11期の貸借対照表及び活動計算書(「実績」部分に限る。)について監査を行いました結果、会計帳簿と一致し、法人の財産及び経常増減額の状況を正しく示していると認めます。

2015年5月25日  
特定非営利活動法人かものはしプロジェクト  
監事

この年次報告書は、  
サポートしてくださっている  
印刷会社のご協力により  
無償で印刷して  
いただきました。



団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
twitter	@kamonohashiprj
facebook	kamonohashi project／かものはしプロジェクト
Webサイト	<a href="http://www.kamonohashi-project.net/">http://www.kamonohashi-project.net/</a>

※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、被害者個人が特定される写真は使用いたしません。  
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。